

萩 ネットワーク

第 56 号 2004 年 3 月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

萩ロケ支援隊（フィルム・コミッション）は、映画、テレビドラマ、CMなどのロケーション撮影の誘致、またロケ撮影をスムーズに進めるため2002年5月に県内で初めて設立されました。（事務局＝萩市観光課）

昨年4月から1か月余りにわたりエキストラ募集、明倫小学校、藍場川、萩国際大学などでロケ協力を行った映画「ほたるの星」がいよいよ公開されます。3月13日からの山口県内での先行上映に続き、6月から全国公開されます。主演は、世界的指揮者・小澤征爾氏の長男・小澤征悦さん。映画の舞台となる小学校校舎として、明倫小学校が全編にわたり登場します。有備館も印象的に使われています。明倫小卒業生の皆さん、ぜひご覧ください。（15ページ参照）

映画「ほたるの星」公開

明倫小学校が登場



明倫小学校舎、明倫館碑の前
主演の^{ゆきよし}小澤征悦さん

©「ほたるの星」製作委員会

目次

春のイベント・・・・・・・・・・・・・・・・	P2
毛利輝元公銅像萩城跡に建立へ・・・・・・・・	P3
「萩城下町絵図発行～古地図で歩く萩の町～」発行	P3
関西の萩～桜の通り抜け～〔一坂太郎〕	P4
ズームアップ〔玉井知正〕	P5
萩の伝統産業「夏蜜柑丸漬」	P6
萩発旬の味便り「シロウオ」	P6
離島の大凧・鬼楊子～伝統を受け継ぐ父子の想い	P7
長門峽生みの親・高島北海①〔中津嘉和〕	P8

メールボックス（会員だより）〔野坂宗伯〕	P9
萩の人・店〔萩鮎（大阪府高石市）河村進〕	P10
下田の厚東満さんがカワズザクラ45本寄贈	P10
新春のスポーツ結果、萩の竹ブランド	P11
夢追人〔片山佳久〕	P12
三輪和彦個展「KAKAN」、美術館だより	P13
情報アラカルト、フォトコンテスト「萩の四季彩」	P14
情報アラカルト、映画「ほたるの星」	P15
大野毛利家と屋敷地の変遷（3）〔樋口尚樹〕	P16

萩のイベントで春を満喫してみませんか

2万5000本の椿が見頃

萩・椿まつり

3月21日(日) まで
笠山椿群生林

主な催し 椿見どころ案内人による案内(午前10時〜午後4時。土曜・日曜日・祝日は会場で受付、無料。平日は予約制)

【土曜・日曜日・祝日のみ】椿の苗木・椿グッズ・特産品販売(午前10時〜午後4時)、抹茶席(午前10時〜午後3時)、郷土芸能披露(午前11時、午後1時30分)

【会場までの交通】越ヶ浜市営駐車場から、明神池上駐車場を経由する無料シャトルバス運行

問い合わせ 萩市観光課
(0838・25・3139)



2月20日からしる魚漁開始

しる魚料理

しる魚まつり

3月7日(日)
道の駅「萩しーまーと」

3月から萩市内の料理店で早春のメニューとして登場します。

【食べられる店】あじろ、あすか亭、いすず、小倉、すし喜、鈴豊、たにし、千代、萩っ子、萩八百鶴、ホテル田中屋、MARU、嫁な喜荘、れすとらん中村、わらじ他
問い合わせ 萩市観光協会
(0838・25・1750)

春は新酒の完成時期

萩の酒まつり

3月20日(祝)
千春楽味楽亭(堀内)

主な催し できたての日本酒を使ったたき酒競技会(午後3時〜4時)、萩の特産品を肴にした「酒と肴を楽しむ会」(午後4時〜)
会費【前売券】男性3000円、女性2500円【当日】男性3500円、女性3000円
問い合わせ 萩市商工課
(0838・25・3108)

春のお魚まつり

4月9日(金)〜11日(日)
萩しーまーと及び漁港周辺

主な催し 朝獲れの鮮魚即売会、萩ブランド魚のお刺身の無料試食、マグロなど大型魚の解体即売
問い合わせ 萩しーまーと
(0838・24・4937)

萩焼まつり

5月1日(土)〜5日(祝)
萩市民体育館

問い合わせ 萩商工会議所
(0838・25・3333)

萩・大茶会

5月3日(祝)・4日(祝)
萩城跡指月公園

萩・夏みかんまつり

5月8日(土)〜23日(日)
かんきつ公園

萩オーブンガーデン

5月17日(月)〜23日(日)
市内各地

問い合わせ 萩市観光課
(0838・25・3139)

浜崎伝建おたから博物館

5月23日(日)
萩市浜崎地区
問い合わせ 萩市まちなみ対策課
(0838・25・3238)

イベント情報は、萩ポータルサイト「萩・情報の駅」<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/> でも見ることができます。

海からの観光



大型客船が次々と来萩

■「クリッパーオデッセイ」

4月21日(水)から6月17日(木)にかけて計7回の入港
バハマ船籍で、乗客は外国人。総トン数5218t。定員120人。

■「にっぽん丸」

4月29日(祝)入港
ゴールデンウィーク日本一周クルーズで初めて萩に入港する予定。商船三井客船(株)所有。総トン数2万1903t。定員532人。

■「飛鳥」

5月4日(祝)入港
ゴールデンウィーク日本一周・韓国クルーズで、昨年に続き3回目の入港予定。郵船クルーズ客船(株)所有。総トン数2万8856t。定員592人。

津和野〜萩間が便利になります

JR快速

「萩・津和野号」

下関から萩を経由し津和野まで、乗りかえなしのオノンカフェタイプの展望列車(4両編成)です。

■料金(片道) 全席指定2130円

■所要時間 1時間55分

■上り 下関発9時10分〜東萩11時30分〜津和野13時25分着

■下り 津和野発14時12分〜東萩16時2分〜下関18時30分着

■その他停車駅 厚狭、美祢、長門湯本、長門市、萩、益田

■運転日 3月20日〜6月27日の土・日曜日、祝日

※3月20日〜4月4日、4月28日〜5月5日は毎日運行

問い合わせ JR東萩駅
(0838・22・0271)

防長バス「特急つわの号」

1日1往復から2往復に増便され、時間も約70分に短縮されます。

■料金(片道) 2080円

■東萩駅発(9時15分、13時30分)

■津和野バスセンター発(10時57分、15時57分)

■運転日 3月20日からの土・日曜日、祝日。※春・夏休み、ゴールデンウィークは毎日運行
問い合わせ 防長交通
(0838・22・3811)

毛利輝元公銅像、萩城跡に建立へ

11月10日に除幕式

毛利輝元公の銅像が国指定史跡萩城跡（萩市堀内）に建立され、11月10日に除幕式を行うことが決まり、銅像のひな型が公開されました。

毛利輝元公銅像建立実行委員会（会長…刀襦勇 萩商工会議所会頭）の主催で、除幕日は「萩博物館」がオープンする11月11日の前日となります。

銅像はあぐら姿の輝元公が右手に扇子、左手には腰に差した刀を握り、たて・よこ各130cmで、170cmの台座と合わせ、高さ約3mの大きさ。

設置場所は、かつての丸南門があった指月駐車場から城内に向かう石垣付近で、現在は道路敷になっています。



作成された銅像のひな形



制作は京都長州藩邸跡（現京都ホテルオークラ）の桂小五郎像や高知県北川村の中岡慎太郎像などの作品を手掛けた、日展評議員の江里敏明氏（京都市在住、56歳）が当たります。江里氏は今回防府毛利報公会所蔵の「毛利輝元公肖像」をモデルにひな型（4分の1の大きさ）を作成、現在は実際に建立する像を制作しています。



建立予定地

全国フラワー都市交流会



美しい花を通じて全国11都市の市町村と交流を深めるフラワー都市交流連絡協議会の総会・交流会が4月11日から2日間、萩市で開催されます。

総会開催後、安達瞳子氏（花芸安達流主宰）を講師に迎え、記念講演会や、「我がまち紹介」と題した交流会等が開催され、翌12日には笠山椿群生林ほか市内各地を視察します。

■加盟都市 萩市（つばき）
北海道中富良野町（ラベンダー）
山形県長井市（あやめ）
福島県須賀川市（ぼたん）
富山県砺波市（チューリップ）
福井県武生市（きく）
静岡県下田市（すいせん）
岐阜県大野町（ばら）
兵庫県宝塚市（すみれ）
福岡県久留米市（つつじ）
鹿児島県和泊町（ゆり）

萩城城下町絵図〜古地図で歩く萩の町〜

見開きパンフレット発行

萩を訪れる多くの観光客に「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」を実感してもらおうと、萩市は、「萩城下町絵図〜古地図で歩く萩の町〜」を発行しました。

萩には毛利藩政期260年間に形成された城下町のたたずまいが都市遺産となって今日まで継承され、点や線ではなく面として今なお色濃く残っており、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」と



なっています。更に、その傍らで近世そのままの空間が市民によって住みこなされ、いたる所に息づいているからこそ、優れた「都市遺産」であると言えます。

パンフレットは約150年前に描かれた「萩城下町絵図」（萩市の大津友一さん所有）を基に、その上に現在の道路、主な史跡を示したものを記し、現代の町筋と比較しながら散策できるようにしました。また、観光スポットがわかりやすいように萩城下町、堀内、寺町、浜崎の4地区の拡大地図と高杉晋作誕生地や菊屋家住宅など名所旧跡の写真を掲載し、説明も添付しました。

定価 200円
販売所 萩市観光課、萩市観光協会
問い合わせ 萩市観光課
（0838・25・3139）へ

★プレゼント

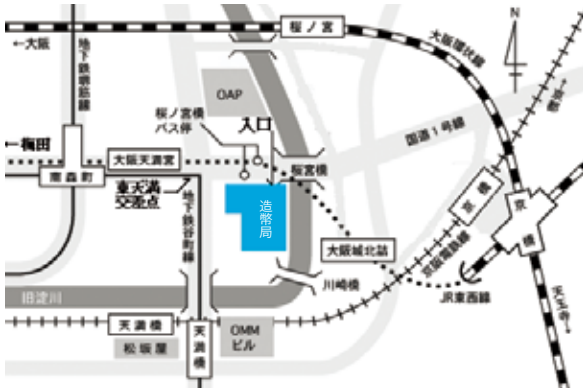
このパンフレットを10名様にプレゼント。応募は、官製ハガキで〒758-8555 萩市広報課内 萩ネットワーク協会プレゼント係まで。締め切りは3月31日（消印有効）。

関西の萩

遠藤謹助提案きっかけ

～桜の通り抜け～

大阪造幣局案内図



▲花見見物に賑わう造幣局の通り抜け

毎年100万人訪れる名所に!!

関西の春はお水取りで始まり、通り抜けで終わると言われる。多い年は1週間に100万人近くの花見客を迎えるという造幣局の通り抜けを提唱したのは、一人の防長人だった。

淀川（現在の大川）右岸で造幣局の建設工事が始まったのは明治元（1868）年11月のこと。維新のさ中、日本の首都が大阪に決まりかけたことがある。その可能性がまだ残る段階で、造幣局建設は計画された。だから東京遷都後も、当初の予定どおり造幣局は大阪に造られた。現在でも造幣局は大阪が本局で、東京と広島が支局だ。こうした国の機関は他に例を見ない。

造幣局が開局した明治4年4月、煉瓦造りの工場と煙突の周囲は草木も無く、殺風景この上なかった。そこで対岸の桜の名所「桜ノ宮」に対抗して構内に桜を植え、一番花を競おうということになる。

この時に植えた桜の若木が、見ごろになっていた明治16（1883）年4月、造幣局長（第10代）の遠藤謹助は「局員だけの花見では、もったいない。市民とともに楽しもうではないか」と、桜満開時の数日、構内を一般に開放することを提案。これがきっかけ

▼遠藤の肖像をはめ込んだ通り抜けの由来碑

（大阪市北区天満）



けと

り、同年より総門（現在の南門付近）から入って川岸通りを抜け、柵門（裏門）へと出る、通り抜けが始まった。

提案者の遠藤は長州藩出身で、幕末には井上馨らとともに、イギリスに派遣された秘密留学生のひとりだ。かの地で造幣技術を学び、明治・日本にもたらした。明治14年11月から26年6月まで造幣局長をつとめ、退任3か月後の9月13日、58歳で没している。

造幣局の桜は品種が多いだけではなく、珍しい里桜が集められており、平成2（1990）年4月には日本さくらの会の「さくらの

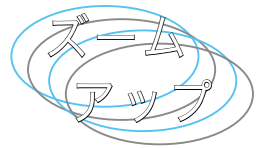
名所100選」のひとつに選ばれた。これを記念し、庭の一面に遠藤の肖像画のレリーフをはめ込んだ、通り抜けの碑が建立され、その史実を伝えている。

なお敷地内（旧正門内）には現在の小野田市出身で、遠藤の後任の造幣局長を20年も務めた長谷川為治の胸像がある。長谷川もまた桜をわが子のごとく育て、通り抜けを一大名所にした功労者としてたたえられている。

（平成16年1月11日付朝日新聞山口県内版「関西の防長⑩」より）

幕末維新史研究家

一坂 太郎（菊川町在住）



日本国内だけのブランド力に頼るのではなく、
アジアの中の「萩」であり、世界の中での「萩」
をアピールすることが必要…

(株) ユニフロー代表取締役社長

玉井 知正 氏

(東京都世田谷区在住 63歳)

私の会社も「スイングドア」という
強いブランド商品を持っています。



私の近況

スーパーやコンビニ店の売り場とバックヤードとの間に設置される扉があります。「スイングドア」と言います。私の会社は、このドアの日本国内のシェアが80%位あります。最近、売れてきたものに「ペッケー」があります。今、日産自動車のテレビコマーシャル

萩のこと

で、子犬が家から飛び出してくるシーンがあります。あの子犬が通り抜けてくる扉です。少子化が進み、高齢者が増えれば、必ず「ペットの時代」が来ると思い、ペットが自由に出入りできる扉があれば便利だと思いました。
中国にも9年前に上海・深圳に進出し、中国に出店する欧米のスーパーに、スイングドアやレジカウスターを納入しています。すべて中国で製造したものです。
今の私の夢は、日本、中国、アメリカを結ぶ三角貿易による商品流通網を構築することです。

私は毎日のように、通勤で世田谷の「松陰神社」の前を通ります。悩みごとがあると、郷里の大先輩に礼拝し、頼みます。すると、どういうわけか、ものごとがうまく解決していきます。

私の会社は、南に10分歩くと渋谷。東に10分歩くと原宿、表参道です。そこには、ルイ・ヴィトン、シャネル、グッチ、セリーヌなど世界のブランド店が軒を連ねています。

日本の景気はまだまだ良くないと言われていますが、これらのブランド店は、大変盛況です。「ブランド力」があるということは、

それ自体に価値を持っているのです。

私の会社も「スイングドア」という強いブランド商品を持っています。

萩は、「萩」という日本国内では有数の「ブランド力」があります。情報産業の進歩と交通手段の短縮化により、世界は身近なものになっていきます。つまり、単に日本国内だけのブランド力に頼るのではなく、アジアの中の「萩」であり、世界の中での「萩」をアピールすることが必要なのだと思います。

これからの萩

「一度だけの萩」にならず、二度、三度と訪ねたくなるような「萩」を創り出すことです。リピーターのない「遊園地」にならぬために、萩のブランド力を生かし、単に静かな、美しい、老人達の想いの町にしないことです。

少子化が進み、高齢化社会になるからこそ、一層の活性化と対応力が急務だと思います。

今年は、萩開府四百年ということですが、明治維新の頃の改革の精神で、先輩達が培ってくれた「ブランド」を、しっかりと守り、育てていかねばなりません。

好きな言葉

サムエル・ウルマン

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。ときには、20歳の青年よりも

60歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。

(抜粋)

プロフィール

昭和34年秋高校卒(11期生)

平成2年から(株)ユニフロー

代表取締役社長

平成7年から上海尤宜福国際貿易有限公司 董事長

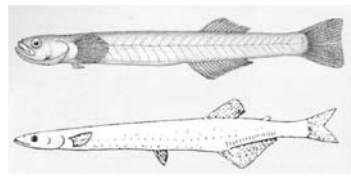
URL <http://www.uniflow.co.jp>

▲ペット専用ドア「ペッケー」、写真の犬は玉井家の愛犬「グッピー」



萩発 旬の味便り

萩のしろうお



▲しろうお (上) と しらうお (下)

●萩の春の風物詩

しろうお漁が始まりました

早春を告げる代表的な魚が「しろうお」です。桜前線より約1か月早く、九州方面の河川河口部を皮切りに、しろうお漁の便りが日本列島を南から北へ北上します。萩でしろうおの遡上が始まるのは2月の中旬から。

萩では藩政時代からの伝統漁法「四つ手網」で遡上するしろうおを捕獲します。四つ手網は、竹で組んだ枠に6畳大の極細目の網を張り、川底に沈め、しろうおの群れが通過するのにタイミングを合わせて人力で引き上げる素朴な漁法。この時期になると、萩の三州の東側を流れる松本川の河口部に、何隻ものしろうお漁の船が浮かび、萩ならではの懐かしい情景ともなっています。

●しろうおはハゼの仲間、しらうおはサケの仲間

しろうおとしらうおはよく混同されますが、全く別の魚です。しろうおは漢字で「素魚」と書

き、透き通ったアメ色の体色と腹部に吸盤状のヒレがあることから判るようにハゼに近い仲間です。

しらうおは「白魚」と書き、体色は白透明、背びれと尾びれの間に、サケの仲間特有の脂びれがあることで、容易に判別できます。

また普通、踊り食いができるのは比較的生命力の強いしろうおの方です。しろうおの漁期は2月下旬から3月下旬頃まで、ちょうど笠山椿群生林の椿まつりの期間と重なります。

●お薦め料理は卵とじ

しろうおと言え、活きたままの踊り食いが有名ですが、これは味わいというより珍しさ、好奇心をくすぐる食べ方。地元では、主にてんぷら、卵とじ、茶碗蒸しなどの料理法で食べています。

特にお薦めは卵とじ。しろうおをたつぷりのお湯で湯通しし、出し汁ににんじんやシイタケなどを入れ、最後にしろうおを入れ、沸騰したところに溶き卵を落とし、蓋をして蒸らす。

3月に入ると、萩市内の主な料理屋で早春のメニューとしてしろうおが登場してきます。また漁の多い時期には、道の駅「萩シーマ」などで、袋に酸素を充填し、活きたままのしろうおを販売したり、地方発送を実施しています。

萩の伝統産業

夏蜜柑丸漬



道具も手製、

製造工程もすべて手作業

今回は萩を代表する名産品「夏蜜柑丸漬」。雑誌「サライ」でも記事紹介された老舗、熊谷町の光國本店にご協力いただき、その製造工程を取材させていただきました。製造所は本店の東南にある建物、中に入るとほんのり甘い香り。ちょうど、丸漬の中に充填する夏橙羊羹を煮ているところでした。製造所内には機械類は全く存在せず、5日間かかる製造工程のすべてが手作業、また各行程で使用する道具類も、長年の工夫が重ねられた手製。ご主人を筆頭に熟練の職人さんの手で、一つひとつ丁寧に作られています。『どれだけ頑張って作っても、一回に200個が限界』、そう仰っていた女将の言葉も、一連の手作業を拝見して納得できました。



7 ▲仕上げ
蓋をして表面を整形し、グラニュー糖をまぶす。その後、半日程度落ち着かせて完成。



5 ▲羊羹作り
夏蜜柑から抽出したエキスや香料を加えた白羊羹を煮込む。



3 ▲中身の除去・アク抜き
専用の道具で中身をきれいにくりぬく。処理後皮は清水に漬け込み、アク抜きをする。



1 ▲皮むき
夏蜜柑を固定する専用の台上で、表皮を1mm程度削って表面をきれいにする。

★プレゼントのお知らせ★
今回取材協力頂いた光國本店より、夏蜜柑丸漬を抽選で5名様にプレゼント。
応募は、官製ハガキで〒758-8555 萩市広報課内 萩ネットワーク協会プレゼント係まで。締め切りは3月31日(消印有効)。

●取材協力/光國本店
〒758-0034 萩市熊谷町4-1
電話 0838-22-0239
FAX 0838-22-0241



6 ▲流し込み
形崩れしないよう、白羊羹を充填するため、流し込みは3人がかりで行う。



4 ▲糖蜜で煮込む
アク抜きの済んだ皮を糖蜜で煮込む。



2 ▲穴空け
円筒形の専用型枠で夏蜜柑の皮に穴を開ける。切り取った部分は蓋になる。

離島の大凧・鬼楊子

～伝統を受け継ぐ父子の想い～

見島の樋口敏雄・克義さん父子

日本テレビ系で全国放映

鬼楊子は今から約1,000年前、平安時代に朝鮮半島から伝わったとされる大凧。大きいものでは畳10畳分の大きさ。誕生した子供の成長を祈る気持ちを込めて、親類縁者が凧作りに集まり、翌年のお正月に大空に揚げる、見島に伝わる民俗行事。樋口さんはその大凧作りの名人で、雅号は天竜。半分に折った和紙（左右対称の絵にするため）に親指の爪で鬼の顔の下絵を刻んでいく独特の手法で、樋口流と呼ばれています。

昔は誕生する子供の数も多く、毎年10を越える大凧が正月の空に舞ったが、最近では過疎と少子化によって、子供の数も減り、樋口さんの凧作りの機会も減少の一方。そんな折、昨年は見島の出身者（島外在住）の2家族（岩崎家・中家^{なかいえ}）に子供が誕生、樋口さんに久々の大凧作りの依頼が。克義さんと一緒に大凧作りに取り組むことになる。

克義さんも、技術的にはまだまだ父の敏雄さんには追いつけないものの、何とかこの伝統を守っていかねばとの想いを打ち明けます。そして今年のお正月、あいにくの強風の中、心配気に空を見上げる父子の上に、見事に二つの大凧が、空高く舞い上がりました。



▲大凧作りの名人 樋口敏雄さん
(テレビ画面から)



名人の長男、樋口克義さん▶

放送終了後、克義さんにお話を伺いました。

「これまで私が大工、父が農業、とお互いちがう職業のため、また父の存在があまりにも大きくプレッシャーがあることから、家で一緒に凧を作ったりということはありませんでした。父が家にいることが多かった今、ちょうどいいタイミングかなあと思い、教えてもらうことにしました。

父が元気なうちは頑張ってもらいたい。それが、父の生きがいになると思う。そして、父がもうできないというときには、私をはじめ、みんなで引き継いでいけたらと思う。鬼楊子作りは、樋口家だけではなく、見島全部で残していかなければならない伝統だと思います」

日本テレビ系の朝の人気番組「ズームインS
UPPER」で、萩・見島の鬼楊子が20分間に
わたり全国放映されました。

過疎化・少子化によって失われゆく大凧作りの
伝統を後世に伝えていきたいという想いを、
樋口敏雄さん（71歳）、克義さん（45歳）父
子のインタビューや現地見島での大凧制作風景、
お正月の凧揚げ風景を交えて紹介。



▲今年^{ことし}の鬼ようず作り(岩崎家)



▲準備が整い、風を待つ



▲空にあがる鬼楊子(見島八町八反)

長門峡生みの親 高島北海①



高島北海

(1850～1931)

写真はナンシー留学時代、
35歳頃

合併すれば「萩市の長門峡」
としてクローズアップ



▶現在の長門峡

現在、阿武郡の川上村と阿東町にまたがる長門峡が、来年は合併する広域萩市のエリアに入り、これまで萩市の長門峡と言えなかったのが、萩の長門峡としてクローズアップされる。しかも長門峡を生み出したのが萩出身の高島北海とあれば、萩のかかわりは深く、泉下で北海もさぞ喜ぶことだろう。

そんな動きを背景に高島北海と長門峡のことについて、1月にテレビ番組を制作した関係で、小文の依頼を受け、浅学もはばからず北海のことを紹介したい。

さて萩市役所の1階ロビー壁面に、萩市名誉市民で文化勲章の松林桂月のダイダイの絵が掲げられている。桂月は、大正・昭和に活躍した南宗画の画家でよく知られている。しかし同じ南宗画家だった高島北海については、あまり知られていない。北海が26歳も年長で2人が活躍した時代が離れ過ぎているからだろう。

ところが、高島北海は文化勲章に縁はなかったが、フランス文部省からオフィシエ・ダカデミー章(教育功労勲章)を授与されている。明治21年、38歳のときである。

北海は明治17年4月、明治新政府の農商務省官吏として英国のエンジンバラで開催された万国森林博覧会に山林局長に随行。そのあと

仏、伊、奥、独、ハンガリー、スコットランド等の山々に登って山林事情を調査、同時に山岳スケッチを行った。そして明治18年4月、そのまゝ3か年にわたりフランス

北東部の旧ロレーヌ公国の首都ナンシーにあるフランス国立森林高等学校留学を命ぜられたのである。

昨年10月、萩ケーブルネットワークがおもてなし大賞表彰式の記念講演講師に招いた芥川賞作家・高樹のぶ子さんを小郡まで迎えに行った折、高樹さんが「ナンシーから帰ったばかり、実は萩出身の高島北海を小説にするつもり、明治の男のすばらしさを謳いたい」と話してくれた。

実を言うと、先の高島北海の番組は、この高樹さんの話に誘発された企画で、高島北海と長門峡にテーマをしばった。ところで高樹さんの小説は、HOKKAIというローマ字題名で文芸誌新潮2月号からの1年間連載。



▶新潮3月号の高樹のぶ子著「HOKKAI」

先日読んだ3月号の第2回目は、ナンシー留学の北海が下宿先のロレーヌ娘に迎えられくるくだり。ナンシーはパリから308km、トルコのイスタンブールに行くオリエント急行の停車駅でもあるとか、おもしろそうな小説展開となっている。



▶萩市江向にある誕生地

萩市江向の自動車学校前通りの民家の玄関脇に萩ユネスコ協会が建てた北海誕生地の石碑がひっそりと立っている。

北海は萩藩の藩医・高島良台の二男で本名得三。幼少から父に絵を教えられて非凡な才能を示していた。青年時代には藩校明倫館に学び学友には乃木希典大將らがいた。

北海は22歳のとき兵庫県の生野銀山に就職、フランス人技師コワニエからフランス語と地質学を学んだ。後年コワニエに学んだことがフランス留学につながり、異色の技術官吏として内務省地理局測量課に移り、富士登山記録に水彩画を挿入したり、全国ではじめての山口県地質図説をまとめる。

31歳では長崎、和歌山、青森な

ど全国24県の官有林調査にあたり、農商務省山林局勤務となり、やがて海外出張、留学へ。

北海は南宗画では一匹狼、師を持たない独自の哲学を持つ。「普く物体を写生する。地質学、動物学、植物学の書を読み天然物の状態性質を察知する。物理学の大意を知る。詩歌の書を読む。時々旅行をする」など美の感覚を養う肝要なポイントを訴える。

北海が森林高等学校留学中、こうした画論を基本に、ナンシーの芸術家と交流、フランス東部美術展に水墨画を出品、パリ装飾美術館長の依頼を受け水墨画10幅を描いて寄贈、ガラス工芸装飾デザインのアール・ヌーボー運動に多大の影響を与えたという。教育功労勲章を受けるきっかけになったのは、フランス東部園芸博覧会の審査官となり、フランス政府のために水墨画12幅を描いたことなどが評価されたものである。

北海は49歳で農商務省を辞め、1年ほど山口県立豊浦中学校図画科教授を務めたが、52歳から画筆をもって世に立つことを決め上京する。文部省美術展の審査委員として文展で活躍、その後日本美術協会展にも審査員として数々出品、その地位を固めて行く。

(つづく)

萩ケーブルネットワーク(株)

制作部顧問 中津嘉和

会員からのお便り めるぼつくす

都会人の ふるさと萩

萩は父親のふるさとで、父母の墓のお守りをしてくださっているお寺があります。

萩に帰るたびに、これからの世紀を「観光」で生き抜いていくのは、容易なことではないでしょうが「何とか今萩が持っている味を失くさないで欲しい」と祈るような気持ちになります。

都会の生活はこれからも厳しさを増し、人は生活に追われて、人間らしい余裕が今日以上に失くなって行くことでしょうが、一方では、本物とニセモノを見分けることのできる眼というか、厳しさが育っていくと思います。甘い考えでは観光がやっていけなくなる日が来るのを、西欧の観光地を見るにひしひしと感じます。

訪問客に媚びないことが大事でしょう。京都のように猥雑なところで満足する観光客を、萩に呼びこむ必要はないのではありませんか？倉敷や川越など観光地として人工の「むかし」で人を呼ぶこと

は続かないし、ハウステンボスなどで人寄せを考えるなど、大衆をなめていると思いませんか？こうした最近できた「作り物の観光」で人が永遠に来てくれるだろうと考え、企画を立てた経営者は落伍していくことになるでしょう。

翻って都会の人々の暮らしは、これからもっと変わらざるを得ないと思います。かつてのように賃金も、欲望を叶えてくれる程には上昇しないでしょう。年金だって思った程はありません。結婚すら考えず、自分の暮らしを支えるのに精一杯の若者が増えているとの報告があります。

たまに朝の満員電車に乗ると、これまで以上に、こんなに乗って毎日仕事に通うなんて人間じゃないと、つくづく思います。まさに外国人の言う家畜以下の扱いを受ける異常な状態ですから、暗く沈んだ気持ちに襲われてしまいましたが、ここで育った多くの若い人たちは生まれてからずっと、肌の擦れ合はんばかりの車内で、通学し、遊びに行き、それが暮らしの一部ですから妥協して生きてゆけるのでしょう。

そんな彼らにとって、本物の町と歴史に触れて、積もりに積もって爆発しそうな心の平安を得たい、また、金をかけて一年に一度でもいいから、本当に人間が住んで、壊さずに蓄えてきた文化のあ

る町に行ってみたい、と思う日が来ると思います。とつきにくいけれど、一皮むけば、そこには、都会にはない味を持った人が生活している町、それが萩であってほしいと思います。

萩にいとそれほどの実感はないが、都会にいと自分のふるさとが萩にあるというのは、誇らしく、またうれしいことだ。萩をこれまで、保ってきたくださった皆さんに感謝したい気持ちが湧いてくる。どうか、もっと自信をもって、今の萩を見に来てもらうようにしてほしいと思います。



■野坂宗伯
むねがし

(東京都小金井市在住 58歳)
30代のころ、米国の電気化学系上場会社の日本子会社の社長に就任、40代でドイツ系日本支社の経営を買取り、それを土台にして今では欧米5社の日本における代理人をしている。海外に出かけることが多く、苦勞も経験しているが、それ以上に人生を楽しんでいます。

イギリス人が行ってみたい日本の観光スポット 「萩」が第2位に



「Essential JAPAN」この情報は野坂宗伯さん(上記参照)から提供していただきました。「萩の宿 常茂恵」(萩市土原)では、この本のコピーを配っています。

- イギリスの旅行会社AA社発行の「Essential JAPAN」は、日本の観光スポットを紹介するガイドブックで、内容はイギリス人が行ってみたい観光スポットトップ10の食事処、ショップなどを詳しく解説しています。AA社は、日本で言えばJTBのような大手の旅行会社です。
- 第1位は「富士山」で、第2位には「萩」が、鎌倉や東大寺などを押さえてランキングに入っています。この本はペーパーバックサイズ、128ページで価格は1000円程度、ネット販売で購入できます。
- ランキング
- 1 富士山
 - 2 萩
 - 3 広島
 - 4 西表島
 - 5 鎌倉
 - 6 金沢
 - 7 金閣寺
 - 8 宮島
 - 9 東大寺
 - 10 築地魚市場
- 萩の記述(概要) 穏やかで小さな町でありながら、幕末から明治維新へと多くの逸材を輩出し、時代の変革に重要な役割を担った萩市。討幕運動の先駆者、吉田松陰の紹介から始まり、萩の名所のひとつとして、裕福な町人を祖先に持つ菊屋家住宅、石井茶碗美術館などがある白壁の美しい萩城下町を紹介。そのほか、屏風類や茶道具などを収蔵品に持つ熊谷美術館や、毎年8月15日には500基あまりの灯笼にろうそくの火が灯される萩・万灯会で有名な、毛利の菩提寺として知られる東光寺が紹介。写真には武家屋敷や、東光寺がカラーで掲載されている。

萩の店・人

大阪高石市 寿司屋「萩鮨」

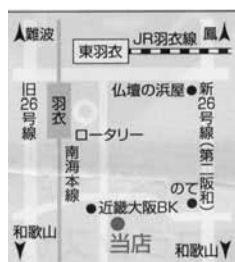
萩出身の河村進さん



ネタは旬の天然物に
こだわっています



◀ 萩鮨の店内



店のある高石市東羽衣は大阪
梅田から地下鉄、南海電鉄を乗
り継いで約30分、羽衣駅下車
すぐ

未っ子だったこともあり、15歳
の春、萩第一中学を卒業して、集
団就職で大阪に出ました。大阪天
王寺の寿司屋などで約12年間、寿
司職人としての修行を積んで、27
歳で今の店「萩鮨」を開業しました。
生まれは萩の川島、両親は魚屋
(当時の屋号は河忠)で、幼い頃
から仕入用のオート三輪に乗せて
もらって、一緒に市場に出ること
もありましたので、魚介類は非常
に身近な存在であったこと。そし
て、親戚に板前さんがいて、これ
も小学校の頃だと思ふのですが、
目の前で『かつら剥ぎ』の見事な
包丁さばきを観て感動したこと、
さらにとにかく自分の力で商売が
したかった、そんな思いが寿司職

人の道を選んだきっかけだったよ
うに思います。

今の店を構えてもうすぐ30年にな
りますが、本店がカウンター14
席、テーブル席が2つ、座敷が2
つ、そして向かいの別館は60人の
座敷と個室が2つ、寿司屋として
は比較的大きな規模、お客様で順
調に商いをさせて頂いています。
仕入れは大阪の鶴橋市場。毎日午
前5時、自分自身で市場に出かけ
て、天然物の魚貝を吟味して仕入
れています。萩出身で関西地区に
住んでおられる方も沢山お越しに
なられますが、共通の故郷「萩」
の懐かしい話で盛り上がりたりし
ます。御土産には焼きぬき蒲鉾な
ど萩名産をお渡ししたりして、結

構喜んでもらっています。

自分自身も一年に1〜2回萩に
帰りますが、やはり何年たっても
故郷というのは良いものです。川
上村の方から山を越えて、指月山
が見えてくると、「ああ、帰っ
てきたなあ」と何とも言えない懐
かしい気持ちになります。昨年か
ら、高校を卒業した息子が店で修
行を始めました。一人前になるの
にあと5〜6年かかるでしょう
が、将来を楽しみにしているところ
です。(談)

■「萩鮨」河村進氏(萩市川島出
身 萩第一中学卒 56歳)
大阪府高石市東羽衣3-18-1
0722-641111(FAX
兼用)

下田市の厚東さんがカワツザクラ45本を寄贈



萩市出身で、姉妹都市の静岡県
下田市在住の厚東さん(静岡県
下田土木事務所勤務)からカワツ
ザクラ45本が寄贈され、2月9日、
道の駅萩シーマート横の親水公園
で記念植樹が行われました。
厚東さんは昨年10本寄贈さ

れ、これらも親水公園に植樹され
ています(萩ネットワーク52号
ズームアップで紹介)。
「定年まで残り3年、それまで
に100本は贈りたいです。微力
ながら故郷に恩返しができるう
れしい。今年は萩は開府400
年、下田は開港150周年とそれ
ぞれが節目の年です。下田は開港
150年を記念して、港を望む海
岸に『海遊公園』が完成し、松陰
先生が伝馬船で出ようとされた遊
歩道が『松陰の小径』と命名され
ます。海沿いの景色が良い公園で
すので是非お立ち寄りください」と
笑顔で語りまし

た。

カワツザクラは
静岡県河津町で昭和
30年に見つかった
珍しい品種で、
2月頃からピンク
色の花が約1か月
間咲きつづけます。

昨年植樹した10
本は早くも開花し
ており、近い将来
親水公園はカワツ
ザクラの名所とし
て、萩市の新たな
観光スポットにな
るはず。



2月下旬にはカワツザクラの花が
咲き始めました(親水公園)

法政キャプテン長嶺君、最後の箱根を力走！



阿武町ロードレース（1月11日）に特別参加した長嶺選手

長嶺貴裕君（法政大4年、阿武町出身、萩高卒）は第80回箱根駅伝（1月2日、3日）で最長区間2区（23km）に出場しました。

長嶺選手は、8位でたすきを受け、9位で3区のランナーにたすきを渡し、チームの総合4位の成績に貢献しました。

今後はJR東日本に就職し、競技を続ける予定。今後の活躍が期待されます。

高校ラグビー 萩工、初のベスト16進出！

花園ラグビー場（東大阪市）で開催された全国高校ラグビーフットボール大会で、2年連続9回目の出場となる萩工業高校ラグビー部は、初の3回戦進出（ベスト16）を果たしました。

1回戦（12月28日）の鶴来高校（石川県）戦を快勝（45―7）した萩工は、続く2回戦（30日）の関西学院（兵庫県）戦も6トライを奪って快勝（41―15）しました。

この2回戦は「今年のベストゲームができた」と田村監督も評価し、「2つ勝って正月を花園で迎えよう」という大会前の目標を最高の形で達成しました。

3回戦（1月1日）ではAシード校の東海大仰星（大阪第2）に敗れ（0―62）、ベスト8進出はなりません。萩工は昨年も2回戦でAシード校の国学院久我山高校に無得点で敗れており、田村監督は「ラグビーに番狂わせはないので、1歩ずつ階段をのぼっていくしかない」とシード校撃破という新たな目標を誓いました。



3回戦 対東海大仰星、1月1日

萩高卒業生が「河村建夫文部科学大臣の就任を祝う会」を開催

写真左から三隅田良吉氏（東京指月会会長）、羽毛田信吾氏（宮内庁次長）、河村文部科学大臣



東京指月会と萩高同期（第13期）卒業生有志の呼びかけで、1月22日千代田区で開催され、同窓生など約80人が出席、大臣就任を祝福しました。国会での公務を終えた大臣が会場に姿を見せると、出席者は一斉に立ち上がり、拍手で大臣就任を祝いました。

フィンランドデザインで

「萩の竹ブランド」をPR

強度、粘りとも良質とされている萩地域の竹を使った「萩の竹ブランド」を推進している萩商工会議所（刀襦会頭）は、2月11日、フィンランド人デザイナーのハンヌ・キャホネンさん（55歳）と、竹製品の意匠開発について共同で取り組んでいくことを合意しました。今後は、10月に東京、11月に萩市で開催される「竹 meets フィンランド」展に15〜25点の作品を出展してもらい、その中から順次商品化を図ります。

キャホネンさんはフィンランドを代表する工業デザイナーで、「フ

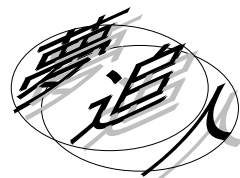
インランド・デザイン・オブ・ザ・イヤー」など数々の賞を受賞し、ヘルシンキの市電のデザインを手掛けた。

「フィンランドには竹はないが、その木工デザインが世界的に注目されていることから依頼した。今世界で注目されているフィンランドデザインと、萩の竹をミックスして付加価値を付けて売り出したい」と刀襦会頭。キャホネンさんは「竹は木材に近い。キッチン用品やアウトドア用品、いろいろ考えてみたい」と意欲を語りました。

萩商工会議所では、平成14年10月に中間法人「萩の竹ブランド推進協議会」を発足させ、竹材を活かした商品の研究開発、竹炭や竹製品の普及PR、販路開拓などを展開してきました。この取組みを「萩の竹ブランド」推進に向けての大きなステップと位置づけるとともに、秋の「竹 meets フィンランド」展で、竹製品の展示、竹繊維の布を使ったファッションショーを行い、萩の竹を内外に発信します。また、関連イベントとして、「全国竹とんぼ競技大会」（10月）、「全国竹の大会」（11月）が萩市で開催されます。



キャホネン氏と刀襦会頭



(株)萩みしま海洋開発ダイビングチーフ

片山佳久氏

(30歳 大阪府出身 見島在住)

昨年7月にサービス開始した見島のダイビングス
テーション「クラブノア見島」のダイビングチーフ(イ
ンストラクター)を務める片山氏にお話をお聞きし
ました。

ダイビングインスト ラクターを夢見たの は小学生の頃から

生まれは東京の下町浅草、幼い
うちに大阪吹田市に移り、26歳に
なるまでずっと人口の多い都会で
育ちました。小学校の頃、家族で
京都北部・丹後半島の間にキャ
ンプに行き、海の美しさに感動。
初めて水中メガネを付けて、鉾で



▲片山佳久氏。関西人特有の人懐っこい人柄
で、お客さんにも親しまれている

魚を突く体験をして、それから海
の虜になってしまいました。

中学になってからは熱心にダイ
ビング雑誌を読み、将来はダイバ
ーになりたいとの思いが募る毎日
でした。高校を卒業後、沖縄の海
でスクーバダイビングを体験、イ
ンストラクターの資格を獲得しシ
ョップを開業するための資金稼ぎ
のため、丸4年間長距離トラック
の運転手として北は北海道、南は
鹿児島まで全国を走り回る生活が
続きました。念願のインストラク
ター資格を獲得し、吹田市の自宅
を事務所にしてフリーでダイビングシ
ョップを開業。

隠岐島から見島へ、こ の島に永住したい

現在のクラブノアとの出会いは、
高校時代の友人がクラブノア
すさみ(和歌山県周参見町)に居
たこと、そして同期のインストラ
クターがクラブノア牟岐(徳島県

牟岐町)に務めていたこと。それ
ら知人の薦めもあって、26歳でク
ラブノア隠岐(島根県隠岐島)に
インストラクターとして入社。2
年間、隠岐の海を沢山のダイバー
に案内してきました。

そして昨年3月、テストダイビ
ング(潜水調査)で見島入り。3
月のシケ状態の海でしたが、魚種
が多く魚影も濃い見島の海の実力
を垣間見ました。7月2日に見島
のチーフとして着任、家内も一緒
に見島の住民となりました。確か
に不便な島暮らしですが、もとも
と海が大好きなので、現在の生活
には満足しています。島の人たち
も大変親切で、島全体が親戚付き
合いのような感じ。ちょうど、島
を出ている息子さん、娘さんの年
代と自分達の年代が重なるのか、
すごく可愛がってもらっています。
魚を沢山いただいたり、朝起
きたら家の玄関に新鮮な野菜がそ
っと置いてあったり。また今度生
れてくる子供のために、見島伝統
の鬼揚げもいただいたり・・・
一番感動したのは夏の盆踊り。
都会ではテープに録音したお囃子
がスピーカーから、というのが普
通ですが、島では全てナマ演奏、
また橋の周りに集まっている
人々も皆顔馴染み。何か、すごく
人間らしい暮らしをしている実感
があり、「永住」というフレーズ
が自然に頭の中に浮かんでまし
た。

ダイビングをきっかけ に島を元気にしたい

日本海側のダイビングスポットと
しての見島の実力は格段だと思いま
す。前職の隠岐を100点としたら
見島は300〜400点、とにかく
魚影が濃く、幻の魚と言われる1m
を超える「クエ」が1か所に10匹も
いますし、南方系の「ウメイロ」な
どの群れもいます。とにかく見島は
「面白い海」です。昨年は試行期間
ということで延べ320人のお客さ
んでしたが、平成16年度のシーズンは
最低1000人をクリアしたいと
考えています。

沢山のダイバーに見島に来て頂
き、見島の海を楽しみ、そしてガ
イド船の漁師さんをはじめとする
島の人たちと交流してもらおう。都

市部の若い人たちと島の人たちが
交流することで、島民も刺激を受
け、そして自分の住む島に自信を
もって、気持ちが高揚する。も
ちろん島にお金も落ちるので経済
的な効果もあります。ダイビング
サービスという仕事を通して、都
市部と島をつなぐ、そして島の
人々を元気にする役割が果たされ
ばと思っています。(談)

■プロフィール

見島在住 30歳 大阪府吹田市
出身 大阪学院高校卒
平成15年から萩みしま海洋開発
(クラブノア見島)ダイビングチ
ーフ

■クラブノア見島

TEL0838・23・5757
http://www3.ocn.ne.jp/
noah-m/news.htm



▲いざポイントへ
画面いちばん右がウェット姿の片山氏。クラブノア見島は
通年営業で、2月の寒い時期でも予約が入ってきている

森重耐子さん 作品写真集

「伝承の小萩人形」出版

萩市の伝統民芸品「小萩人形」を残そうと、元教諭森重耐子（古萩町 73 歳）さんが、作品写真集「伝承の小萩人形」を出版しました。

小萩人形は高さ約 10 cm で歌舞伎や民謡などを題材に、針金を軸にして綿で形を作り上げます。昭和初期に開発され、一時期は萩の特産品として海外へ輸出されたことも。森重さんは、小学校教諭を退職後、多くの作品を残した故柳橋貞子さんに人形作りを学びました。

写真集は、自作の人形 77 点がカラーで作り方とともに紹介。萩の写真家下瀬雄雄さんが撮影、編集を手がけました。代表作「出雲の阿国」、「滝の白糸」など、かれんで優美な表情をたたえた作品が収められています。



■作品写真集「伝承の小萩人形」
縦 17 cm、横 18 cm、84 ページ。
定価 1500 円
申し込み・問い合わせ 森重耐子
(0838・224・2400)



三輪和彦個展

『KAKAN』

萩焼作家三輪和彦さん（52 歳）の個展「KAKAN（花冠）」が萩市のギャラリー彩陶庵で 1 月 23 日から 29 日まで開かれ、2001 年から展開している「花冠」シリーズの新作 20 点が展示されました。

「花冠」シリーズは、「一輪の花を大地の一片に」が作品のテーマ。地殻をえぐり獲ったような荒々しい切れ込みが「大地」を感じさせ、そこに生けられた一輪の花が命を与える様子が表現されています。縦型花器は一体 100 kg 以上の、また、蓋物は一体 300 kg 以上

「一輪の花を大地の一片に」

上もの土の塊を、木の棒でたたいたり、フォークリフトに重しをつけ、特製の鋼の刀で切り込みを入れて作成しました。

外館和子（茨城県陶芸美術館副主任学芸員）さんは「耐え抜いて立つ先端のフォルムはあたかも侍のように凛として潔い。忘れかけていた武士道なる日本の精神を思い起こさせる造形だ」と評していました。



山口県立萩美術館・浦上記念館だより

平成 16 年度特別展

初期伊万里展

～染付と色絵の誕生～

4 月 3 日～5 月 23 日
江戸初期肥前磁器の精粹を、日本海航路によってもたらされた新発見の伝世品を加えた約 160 件を紹介。

受贈記念 浜村實

コレクション展

4 月 13 日～5 月 23 日
寄贈いただいた作品「青花牡丹唐草文鉢」を筆頭に、中国、朝鮮、日本の陶磁と日本絵画の 49 点を紹介。

出光コレクション

肉筆浮世絵名品展

5 月 29 日～7 月 19 日
東京・出光美術館所蔵、喜多川歌麿の「更衣美人図」をはじめ、肉筆浮世絵の歴史を見わたせる作品約 100 点を紹介。

洛陽の夢 唐三彩展

7 月 24 日～9 月 5 日
中国古代陶磁の至宝「唐三彩」。新出土品と河南省内各地の博物館が収蔵している名品の中から厳選した 118 件を紹介。



「HANGA 東西

交流の波」展

9 月 11 日～10 月 24 日
ゴッホ唯一の銅版画「パイプの男（ガシェ博士像）」をはじめ、ゴーギャン、マネ、北斎、広重などの版画作品約 200 点を紹介。

萩開府 400 年記念陶芸展（仮称）

10 月 30 日～11 月 28 日

シリーズ山東文物 5

小さな御仏たち展

12 月 11 日（日）～
平成 17 年 3 月 13 日
山東省中北部黄河下流の平原地帯に位置する佛教寺院址から出土した中国南北朝時代の小金銅仏約 70 件を紹介。

今年度の茶室

和風展示室に藍染めの第一人者福本潮子（京都）さんによる「天空の茶室」がオープンしました。3 月 6 日から平成 17 年 3 月 27 日まで展示されます。

情報アラカルト

関東地区

■画文集出版記念 内田青虹展
萩市出身の画家 内田青虹(旧姓富田 萩高第5期卒)の新・旧作品が展示されます。
とき 3月6日(土)～11日(木)
ところ 東京都中央区 銀座書廊(長崎センタービルF3)



▲「天平の彩」

■First Contact
写真と陶芸の可能性
大屋窯の濱中史朗と写真家佐竹卓也の作品が展示されます。
とき 3月30日(火)～4月4日(日)
ところ 東京都中央区 清月堂画廊
■三輪華子個展「浄」
萩焼作家・三輪華子による2001年東京での初個展「妙」以来2度目の個展。レーザー光線を用いた陶と光のインスタレーション。氷晶をイメージした造形作

品20点が展示されます。

とき 3月10日(水)～21日(日)
ところ 東京都中央区銀座 フジ中画廊



▲「浄」

関西地区

■大阪指月会総会

大阪指月会総会を次のとおり開催します。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

とき 4月18日(日) 正午
ところ 大阪府北区 大阪弥生会館

東北地区

■岡田裕 八代就任披露作陶展

萩焼作家 岡田裕の作品が展示されます。
とき 5月21日(金)～29日(土)
ところ 山形県山形市片谷地399-65 白画廊

中国地区

■大屋窯・磁器展

大屋窯の作品が展示されます。
とき 4月24日(土)～5月11日(火)

ところ 島根県大田市大森町ハ183 石見銀山群言堂

萩市関係

■ギャラリー草莽の企画展

●春の版画と水彩画展
大谷桂子の作品が展示されます。

とき 3月18日(木)～21日(日)
●なにかひとつのからだかざり
西村真紀の作品、手染め綿を使った帽子、手さげ、くびかざりが展示されます。

とき 4月20日(火)～25日(日)
ところ 萩市土原 長屋門珈琲カフェティカル内ギャラリー草莽(0838・26・2933)

■ヴィレージのコンサート
ジャズピアニスト・秋吉敏子によるコンサートが開かれます。
とき 4月10日(土) 午後7時
ところ 萩市土原 喫茶ヴィレージ(0838・25・6596)

入場料 7000円
■県立萩美術館・浦上記念館の常設展示

●浮世絵に描かれた中国

●朝鮮陶磁の展開

とき 4月11日(日) まで

萩開府400年記念
フォトコンテスト

「萩の四季彩」

江戸時代の地図がそのまま使える城下町「萩」の町並や風物、そして豊かな自然を素材にした写真コンテストが1月よりスタートしました。開府400年を迎えた萩の魅力、さまざまなアングルから再発見することを目的に、一年を春夏秋冬の4期に分け、四季それぞれの魅力を、数多くの写真愛好者の構図で切り取ってもらおうという試みです。

審査員は下瀬信雄氏(萩市在住写真家)。

◆実施時期(応募締切)

第1期 3月まで(5月末日)
第2期 4月～6月(8月末日)

第3期 7月～9月(11月末日)
第4期 10月～12月(平成17年3月末日)

◆応募方法

作品の裏面に、氏名、住所、電話番号、画題を記入した紙(様式不問)を添付して郵送

◆作品規格

カラーもしくはモノクロプリン
4つ切サイズ デジカメ可

◆賞金

グランプリ 1点 5万円

特選(各期1点) 3万円

入選(各期3点) 1万円

特別賞(各期10点) 萩の特産品

◆申し込み・問い合わせ

〒758-0061 萩市椿3573-13 萩市観光協会「フォトコンテスト」係
(0838・25・1750)

■「新撰組」FMウォークin萩

4月から半年間、萩市役所庁舎内にミニFM局を開局し、「新撰組と志士ゆかりの地」と題し、新撰組と萩の関わり、観光情報、大河ドラマ出演者のコメントなど、楽しい情報(毎月更新)が放送されます。ラジオを聞きながら観光することで、パンフレット等を見ながらの観光とはまた違った臨場感を楽しむことができます。

■オープニングイベント

(4月3日9時～14時、萩市内)

生放送で情報を発信して、ウォーキングイベントを開催します。

萩市役所を起点とする3コースを町歩きしていただき、特産品が当たる抽選会を実施します。

■オリジナルラジオプレゼント

放送期間中、JR西日本では、萩方面のJR利用の宿泊(萩を目的地とし、プレゼントの記載のある宿泊商品)を申込みれた方に「オリジナルラジオ」をプレゼント。問い合わせ 萩市観光課
(0838・25・3139)

■日野原重明先生講演会「輝いて生きる 各年代層の方々へ」

日野原重明（聖路加国際病院理事長、日本音楽療法学会理事長）による講演会が開かれます。

とき 4月9日（金）午後7時

ところ 萩市江向 萩市民館

入場料 1000円

問い合わせ 萩発愛のメッセージ（0838・25・3215）杉へ

■萩城下の古き雛たち

萩市内に残っている江戸から昭和までの古い雛人形を多数展示しています。

とき 4月3日（土）まで

ところ 青木周弼旧宅（南古萩町）、旧湯川家屋敷（川島）、伊藤博文別邸（椎原）

出版情報

■文芸誌「新潮」連載

高樹のぶ子の新連載「HOKK A」が掲載。アールヌーボーに影響を与えた萩出身の画家・高島北海を追う主人公の物語。

定価 950円（税込）



■久保松太郎日記

吉田松陰と松下村塾の同窓生で、幕末維新期に行政官として手腕を発揮した長州藩士久保松太郎（1832～1878）の日記がマツノ書店（周南市）から刊行。校正の担当は幕末維新史研究家の一坂太郎氏。

定価 1万5000円（消費税・送料込み）

申し込み マツノ書店（9834・21・2195）

■西日本新聞「長州藩留学生物語」連載

幕末維新史研究家の一坂太郎氏が執筆。平成15年3月から西日本新聞で毎週月曜日掲載。

■「サライ」2004年1月15日号

特集「北前船の港町を旅する」で、萩市の浜崎港が紹介。萩の銘菓、光國本店の「夏蜜柑丸漬」も紹介されています。

定価 450円

テレビ・映画情報

「嘘う伊右衛門」全国東宝洋画系にて上映中

昨年7月に萩市堀内の鍵曲で撮影が行われた。2月7日より全国東宝洋画系にて公開中。

監督 蜷川幸雄

出演者 唐沢寿明、小雪ほか

内容 生真面目な伊右衛門と、美しさが評判だったが病の

ため顔の片側が崩れてしまったお岩。二人を取り巻く人間たちの愛憎や狂気を交えて描く究極の恋愛映画。

■萩出身の俳優・松本実さん活躍中



映画「あずみ」に飛猿役として出演した、萩出身の俳優・松本実（萩市吉田町29歳）さんが今年もテレビドラマで活躍しています。出演予定のドラマは次のとおりです。

●NHK金曜時代劇「御宿かわせみ」第2章・第2回「女難剣難」（忠吉役）

出演 高島礼子、中村橋之助ほか

放送予定 4月9日（金）午後9時15分～58分

放送局 NHK総合

●NHK特集ドラマ「シエエラザード」（柳井上等兵役）

原作 浅田次郎「シエエラザード」

出演 反町隆史、小澤征悦、長谷川京子、長塚京三、仲村トオル、石田ゆり子、平幹二朗ほか

放送予定 7月（予定）

放送局 NHK総合

映画「ほたるの星」

3月13日から
県内8映画館で先行上映
「家族で見たい」

菅原浩志監督



▲萩ツインシネマでの試写会

学大臣になって最初に見た映画が『ほたるの星』で、大変幸せに思っています。子供たちのみずみずしい感性、そして先生方とのふれあいを通じて成長していく姿が素晴らしい。日本中の皆さんにこの映画を見てもらいたい。（チラシより）

出演者 小澤征悦、役所広司、樹木希林、山本未來

配給 俳角川大映映画

上映時間 101分

主題歌 「初恋」唄 松浦亜弥

上映館 萩ツインシネマ・岩国ニユーセントラル・MOVIX周南・テアトル徳山・ワーナーマイカル・山口スカラ座・シネマスクエア7（宇部）・下関東宝

菅原浩志監督の最新作「ほたるの星」は萩市の明倫小学校ほか、山口県各地で撮影された感動の実話。昨年の東京国際映画祭コンペティション部門に出品されました。3月13日に山口県内で先行上映後、6月に全国公開されます。

映画「ほたるの星」は、防府市内の小学校であった実話を題材に、ホタルの飼育を通して新任の教師と心を閉ざした児童が少しずつ交流を深めていく過程を描いた物語。

2月20日、萩ツインシネマで試写会が開かれました。菅原浩志監督は「世代を越えて見ていただける作品になりました。撮影に協力してくださった地元萩の皆さんに感謝します。」とあいさつしました。

河村建夫文部科学大臣「文科科

新博物館建設地、

大野毛利家と屋敷地の変遷(3)

―大野毛利家屋敷地の変遷、その一―

大野毛利家は、初代就頼^{なりよしか}の代の寛永2年(1625)冬、萩城下渡り口(現在、萩市古萩町)に屋敷を拝領し、岩国吉川領の通津^{つづ}(現在、岩国市通津)から萩へ移り住んだといえます。その後、承応^{じやうおう}元年(1652)9月10日、就頼は渡辺太郎左衛門元(萩藩寄組、石高1154石余)の堀内(萩城三の丸)本町の上屋敷(萩博物館の建設地)を拝領し、渡り口の屋敷は下屋敷として遣^{つか}わされました。しかし、この当時、大野毛利家の上屋敷地の範囲は、萩博物館の建設地全体を占めていたのではなく、ほぼ南側半分の敷地にあたっていたようです。敷地の一面を大野毛利家の屋敷地として拝領したのは、3代当主元直^{もとちか}の代にあたる正徳4年(1714)のことでした。

萩博物館の建設地は、最初から大野毛利家の上屋敷地ではなくて、大野毛利家が拝領する前は渡辺家の上屋敷地でした。渡辺家は代々毛利家の譜代として重きをなし、元より5代

前の通は、天文12年(1543)出雲国の尼子軍との戦いで毛利元就の身代わりとなって戦死しました。この時、元就は毛利家が続くかぎり、渡辺の家は見捨てないと誓ったといえます。渡辺家は毛利家にとってはいわば恩顧の家来で、毎年毛利家年始の甲冑の儀式には、渡辺家の当主がその役をつとめました。元は慶安元年(1648)11月29日に亡くなりますが、実子がなく、分家である弟の五郎左衛門充の嫡子を養子として相続させようとした。この当時、当主が重病危篤となって死の直前に急に願ひ出た末期養子^{まっこようし}は認められておらず、「お家断絶」となっていました。

渡辺家の場合も、当然、末期養子とみなされました。しかし、渡辺家は毛利家にとっては恩顧の家来であるので、承応元年8月28日に元の隠居領500石を合わせた600石を増する形で、元の弟充が渡辺の名字のみを相続することになりました。藩としては、末期養子の掟を遵守するために、形式的に渡辺本家を断絶したのでした。渡辺本家が断絶した直後に、大野毛利家がその上屋敷を拝領することになるので、渡辺家から大野毛利家への屋敷替えは、渡辺本家の断絶がきっかけになっていると考えられます。

大野毛利家が拝領した堀内の上屋敷は、中の惣門北側の角地にあり、堀内本町に南面していました。この上屋敷は、藩にとつては「見付入口」とみなされ、萩城三の丸の入口にあたる枢要の地として位置づけられていました。上屋敷地の南東隅に置かれた隅矢倉^{すみやぐら}は、まさに城下と城内とを区切る中の惣門の出入りを監視する機能を担っていたと思われます。しかし、大野毛利家初代の就頼は自ら望んで、この上屋敷を拝領したのではなく、「見付入口」ゆえに藩主の意向によってこの地に配置されたとあります。藩にとつて、この上屋敷地は萩城を防衛・警備する上で、重要な拠点であったので、屋敷地の拝領にあたってここに誰を配置するのかが重要な問題であり、藩主の意向が強く反映されたのでした。

萩市郷土博物館長 樋口尚樹



▲大野毛利家隅矢倉
(大正12年(1923)撮影)

シリーズ「萩ものがたり」

定期購読会員募集中!!

2004年は萩開府400年

萩
ものがたり



前号でもお知らせしましたとおり、後世に語り継ぐべき萩の財産を、ブックレット・シリーズ「萩ものがたり」として1年に4冊の出版を計画しています。

■4月発行(第1回配本)

「高杉晋作 100問100答」(幕末維新史研究家・一坂太郎氏)

内容 維新のヒーローとして幅広い年代層にファンの多い高杉晋作について、一問一答形式で、どのページからでも楽しく読むことができるように編集。

「萩の椿」(萩市郷土博物館嘱託・吉松茂氏)

内容 今ちようど見頃を迎えた笠山の椿群生林を中心に、萩市内の椿について、その生態や由来、興味深いエピソードなどを交えてまとめられています。巻末には群生林の詳細なガイドマップも収録され、この本を片手に群生林を散策する格好の一冊。

仕様 A5サイズ。50〜80ページ

販売定価 一冊500円〜800円

会員特典 4月と10月発行の計4冊の定価合計が2000円を超えても、会費2000円で郵送します。

申し込み・問い合わせ 前号同封の会員申込みハガキまたは官製ハガキ・FAX・Eメール(いずれも住所・氏名・電話番号・会費支払方法を明記)で申し込み。〒758-1855 萩市江向5-10 萩市広報課内萩ものがたり定期購読受付係(FAX 0838-265458、Eメール story@city.hagi.yamaguchi.jp) まで